

.....
○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。開会を2時5分から行います。

午後1時50分休憩

.....
午後2時03分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、6番、脇本啓喜君。

○議員（6番 脇本 啓喜君） こんにちは。会派新政会の脇本啓喜です。直近2回の私の一般質問、冒頭質問は5分足らずで切り上げていたんですが、約30分近い答弁をされてる。なかなか詳しいやり取りができなかったことを反省しております。結論を先にして、簡明な答弁を求めます。

さて、質問に入る前に、通告外ですが、議会初日の「じえじえ」という財部市長の進退発言、翌2日目以降の「じえじえじえじえ」という撤回発言に関しまして、時間一杯、腹一杯言いたいことあります。しかし、腹八分目にとどめたいと思いますので、どうぞ発言の許可を議長に求めます。よろしいでしょうか。

○議長（作元 義文君） はい。

○議員（6番 脇本 啓喜君） 本来ならば、首長の進退発言というもの、しかも議会本会議における発言となれば、撤回などもってのほかだと思います。しかし、私は国境離島新法という大きな目標が目の前にある中で、議長選出もそれを第一義として作元議長に再登板を真っ先にお願いました。ここで、首長交代となれば、現在の市民及び将来の市民に対して損失を与えかねないとそのことを考慮して、今回は矛をおさめるという苦渋の選択をいたします。

しかし、無条件で撤回を受け入れていては、議会そのものの存在意義が問われることとなります。以下の条件を、市長が真摯に受けとめて実行することを求めます。

行政が議案を上程する、特に予算案とは、どういう性格のものであるか、私見を述べます。

行政の予算案は、一般社会で例えるならば、市長をはじめとする理事者が事業主とすれば、議会は銀行の融資担当者だと思っています。事業主は、新規事業展開や大きな資金を必要とする設備投資を行う際には、銀行に綿密な事業計画を提出して融資を申請します。この事業を実施することで、売り上げがどの程度増加し、仕入れ先、販路も十分に確保できていることなど、融資を受けても十分計画どおり返済できることを一生懸命銀行に説得をするはずで。

さて、対馬市という事業主は、予算案という事業計画書を市議会銀行に対して十分な説明をしているのでしょうか。

本来、予算は、予算委員会で十分な審議を行うべきもので、事前に議会へ説明するべきでもな

い、そうなのかもしれません。しかし、膨大、多岐にわたる予算案を全て丁寧に審議しては、幾ら時間があっても足りません。スムーズな審議のためには、重要予算、新規事業予算、大幅変更予算等は事前に丁寧な説明が必要です。

対馬市議会銀行には、半沢直樹の父の工場を見殺しにする何でも反対する鬼のような行員はほんの一握りしかいないはずですが、むしろ、市民や事業主のことを第一に考え、アドバイスを送り、親身になって借り主である市長を支える優しいまちの信用組合員のような、そういう議員が多いと私は思っています。

対馬市は、対馬市議会信用組合に予算を可決してもらい、融資を受ける側であるということを知り、理事者はもっと自覚すべきです。対馬市観光交流センター建設費に係る予算上程の経緯を具体例として、財部市政の予算案の上程姿勢をたどります。

まず、この予算案は、ことし3月に今年度当初予算として上程されています。しかし、新規事業かつ全体予算総額6億円を超える事業であるにもかかわらず、予算書本体には、「まちづくり交付金」としか記載されておらず、参考資料の備考欄に「対馬市観光交流センター建設費」と記されているだけで詳細説明はなされぬまま、誰も気づかず、質問がなければしめたものだと、そうでも思ったのでしょうか。名前をつけるならば、「だまし討ち予算」です。

今回の12月定例会へ1億数千万の同建設費追加を補正予算として計上しています。予算を小出しにして、ある程度予算執行した後、もう反対しにくい段階になって常識外の追加補正予算を出してくる、名づけて「遅出しじゃんけん予算」です。

その他の市民生活に係る予算を人質にとるような、こんな不親切でひきょうな予算案を出されては、市長と議会の信頼関係が築けるはずがないと思います。少なくとも、市長よりも議会のほうが市民が困らないように予算を通してやろうと奔走する状況は何度となくあります。おかしいと思いませんか。

先ほど、連絡と報告の意味の違いを渕上議員は指摘しましたが、そうはいつでも雨降って地固まる、市長はそのつもりでなくても、私にはそう受け取れる。だまし討ち予算、遅出しじゃんけん予算の上程は行わないとここで約束ください。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 決して、私ども、だまし討ちとか後出しじゃんけんとかいうつもりは全くないわけですが、経過の中でそのように解釈をされたところにつきましては、私どもの行政運営の不徳のいたすところだろうと思います。極力、こちらも全てを、今、予算に関しましては、市民自体がよくわかる予算書とかいう形で予算書以外にもつくり出している状況でございます。どうか、そのあたり、今回、今のようなことがあったということで申しわけなく思いますが、以後、そのようなことのなきようにやっていきたいと思っております。

○議長（作元 義文君） 6番、脇本啓喜君。

○議員（6番 脇本 啓喜君） それでは、通告しておりました質問について始めたいと思います。

大きな1番として、北の玄関口機能の充実に向けたビジョンについて、（1）比田勝航路国内線の将来像について、①新比田勝港国内ターミナル移転から2カ月が経過しましたが、その整備の現状について所見を求めます。これは、昨日、春田議員のほうから通告外で質問があり、答弁がありました。もっと詳しく答弁を、その件についてはいただきたいと思います。

早朝4時半に岸壁に着岸して比田勝まで歩いて帰ると、街灯が少なく、歩道も未整備なガタガタ穴ぼこ道を大型貨物トラックが土煙を上げて追い越していきます。大変危険な状態です。まだ、仮舗装もされてないという状況です。冬期雨上がりには、凍結により歩行者の転倒、車両のスリップ等、人身事故が懸念されます。当然、泥はね等の被害も考えられます。また、貨物トラック駐車場も未舗装であり、周辺環境に悪影響を及ぼしています。さらに、フェリーに泥が大量に運び込まれ、排水が詰まる等の御迷惑も運航業者におかけしています。

確かに、県事業であるとはいえ、供用開始までに、本来は道路を含めて完成していかざるべきです。ところが、この周辺整備は、来年の8月にならないと完成しないということです。新比田勝港整備全体計画において、市はこのような進捗状況では困るということをしつかりと県のほうと調整していただきたいと思います。

②フェリーげんかいのリプレイスについて答弁を求めます。

先ごろ、国県道路等整備促進特別委員会で報告されたこの報告書については精読いたしましたので、今後、どのような方針で進めるかに絞って答弁を求めます。

（2）渚の湯隣接ホテル用地の再公募について、6月議会の私の一般質問に対して、「自由度を持たせた条件を再検討しながら物事を進めていきたい」との答弁がありましたが、いまだに再公募がされていませんが、どのようにしてホテル誘致を進めていくのか、その進捗状況について答弁を求めます。

また、この観光客誘致について関連しますので、先ほどの淵上議員の質問の際に、「リピーターを増やすためには、市が動くだけではだめだ」という発言が市長のほうからありました。しかし、市が動けばすぐにでもリピーターが増えるのではないかとこのところがありますので、ここで指摘させていただきます。

国際ターミナルの出入国時間、環境を変えること、整備することでリピーターは増える、着いて、1時間して着いて、2時間、3時間かけて審査を受けなきゃならない、この時点で、もう来たくないと思っている観光客はたくさんいます。これは、行政、地元自治体がやることだと、この整備は、思っておりますので、ここについては、市だけではだめだということではなく、市の気概一つでできることだと私は思います。

本質問に戻ります。

2、貿易振興に向けたビジョンについて、いつまでに、誰が（輸出主体）、どこで、どこから、どこに向けて、何を（輸出品目）、どのくらい、貿易を振興をさせていこうと考えているのか、そのビジョンについて答弁を求めます。このビジョンがなければ、整備計画は継ぎはぎだらけの無駄や不足が生じてきます。

(2) (1) のビジョン実現に向けた具体的な取り組みについて、その障害となっている事象について具体的に答弁を求めます。特に、細かいことかもしれませんが、貿易船が入港する際の申請受付体制の脆弱さは、市の貿易振興に取り組む消極的姿勢のあらわれだと思えます。この改善についても答弁をいただきたい。

以上、よろしく申し上げます。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 協本議員の質問に答えさせていただきます。

昨日の春田議員のおっしゃられました比田勝港の国内ターミナルと道路事業との不整合、この問題については、昨日も答弁させていただきましたが、国際ターミナルのといえますか、国際観光客とのバッティングを避けるために、国内旅客ターミナルを網代のほうに早くにまず移そうということが先に走られたというふうに聞いております。そういう中、道路事業の予算等の伸びとマッチングしなくて、現段階において利用客の皆様に迷惑をかけているということでございまして、このことにつきましては、改めてまた県のほうに8月と言わず、1カ月でも2カ月でも早くにできるような措置を講じていただけるように要望をしていきたいと思えます。

フェリーげんかいのお話がございました。更新の話です。これにつきましては、築30年以上、建造30年以上が既に経過をしております。船舶は老朽化しており、揺れも大きいため、利用者からも不満の声が出ていることも十分に承知をしております。市としましても、船舶の更新の必要性があると判断して、航路運行事業者である九州郵船株式会社へ要望をいたしました。

しかし、国・県の補助をもらって運航している国庫補助航路であるため、国・県の許可が必要なこと、現在の経営状況では会社独自での船舶更新は大変困難であるとの回答が戻されました。ならば、フェリーきずなのリプレイスにより空船となるフェリーニューつしまを比田勝航路へ回してもらえないかと県にも相談をさせていただきました。現在でも、2億程度の赤字が出ている航路であり、さらに2億から3億の赤字が予想されることから困難であるとの回答が返されたところでもあります。

次に、構造改革補助を利用して船舶更新を図るために、長崎県離島航路対策協議会对馬支部を起ち上げ、平成24年度に計4回の協議会を開催し、経営診断、航路診断を含めた航路改善計画を作成しました。その中で、700トンクラスの新船を建造するとの方針が出されましたが、建

造費が18億円程度かかることから、簡単には予算が確保できないため、なかなか更新には至っておりません。県のリプレイス事業での更新も相談をしましたが、当初計画していた船舶も更新されておらず、新たな追加は困難であるとのこと、また、国際航路であるJR九州高速船への混乗の可能性も含めての検討をしたいとのことでありました。北部住民の重要な足である航路でありますので、国・県に対しまして粘り強く要望をしていき、船舶の更新を図りたいというふうに考えております。

次に、渚の湯に隣接しておりますホテル用地の再公募のお話がありました。これにつきましては、6月議会で報告したとおりでございます。その後、どんなになっているのかということでございます。1回出して、そして、その後も可能性のあるところには一応当たっております、ずっと。そういう中、その右から左にすぐ物事が決まらない状況も理解をしていただきたいと思えます。その中での話として、先ほども申しましたリピーターの率を上げることによらないとホテルというものも難しさがあるというお話を聞いたところであります。

それは、島民の方たちも感じておられる部分だろうと思えます。何かを投資をする際のその部分とリピーター率というのも感じてあるなというふうに思えます。それらをどう改善していくかということで、今、私どももずっと頭を悩ましながら、市民の皆様全体で取り組んでいかなくてはいけない問題だというふうに思っています。

リピーターの話に関連しまして、入国審査の時間を短くすればというお話がありました。一応、今の4ブースを6ブースにふやす計画では、当然あります。それで、約1.5倍のスピードにはなるんだろうと単純に、単純計算すればなります。それと、当然これにはCIQの要員との兼ね合いがどうしてもあります。そういう中での調整で、そこに至ったということも御理解をいただければと思っております。

国際ターミナルのことがありましたかね、方向性。今のよろしいですかね、国際ターミナルについては。（「また、再質問します」と呼ぶ者あり）

では、大きな2点目の貿易振興について具体的計画はどんなふうになっているのかというふうにお尋ねでございました。計画自体というのは、私どものほうで貿易計画、振興計画というのは、実際問題持ち合わせてはおりません。そこで、今の私のほうから、そのあたりについて細かく計画として言うのはおかしいかなと思っておりますので、それについては答弁としては差し控えさせていただきます。

○議長（作元 義文君） 6番、脇本啓喜君。

○議員（6番 脇本 啓喜君） まず、新国内ターミナルの整備についてなんですが、これ御存じのとおり、県の工事でありますから、市のほうに直接どうこう言うのはおかしいことなのかもしれないんですが、全体の整備としてはかかわっていることです。十分承知しています。国際ターミナ

ルを少しでも早くつくらなきゃいけないということで九州郵船さんには御迷惑を、まだ十分じゃない中、移っていただいて工事に入ってるということも十分承知しています。

ただ、あの網代の地にターミナルができるということ、国際ターミナルであろうが国内ターミナルであろうが決まっていたことです。それが、今、間に合わないということについては、市・県一緒になって、もっと早くできるように努力していただきたいと思います。

先日、よりあい処つしまのオープンのときに松尾振興局長とお会いして状況をお伝えしました。次の日、自分でみずから車を運転して見にきていただいていたようです。そういう、トップみずから現地を見にいって、市民の困ってる状況、お忙しいでしょうが、そういう姿勢を見せていただくことで、また市民の気持ちも変わってくると思いますので、よろしく願います。

それと、げんかいのリプレイスについてなんですが、リプレイスできるよう、これからさらに努力していくという答弁でよかったんですかね。今、そういうふうに関心しましたが、その辺もう一度確認したいんですが、ここまでよろしく願います。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） リプレイスを私どもの離島航路対策協議会の対馬支部においては決定しております。その方向で、私どもは粘り強く、それが意味市民の声だというふうには思っておりますので、これについては粘り強く言っていけないと思っております。

ただし、これも既に御存じのように、国の社会資本整備交付金等の使い方について、会計検査等で一定の制約等も出てきているとも聞いております。それらをどのようにクリアするかということ私どもは考えて、今度いかにいけないのではないかとこのふうには思うところです。

○議長（作元 義文君） 6番、脇本啓喜君。

○議員（6番 脇本 啓喜君） 先ほど、報告、連絡という話がありました。確かに市議会のほうでは特別委員会のほうに調査・研究していただいて伝わってると思いますが、やはり、このことも関心事です。今、どういうふうな状況になっているのか、インターネットでも結構だと思います。その状況を市民もわかるような形でお知らせいただきたいというふうに思います。

それから、ホテル誘致に入る前に、先ほどの市だけではリピーターを増やすことは難しいということで、私が新国際ターミナルのことについて話をしました。私が言ってるのは、そのC I Qとの調整というのは、あるのはもちろんわかっています。

ただ、この新国際ターミナルというのを建設すると、10年どころか20年、30年とそこを使うはずなんです。先ほどの淵上議員の質問ではありませんが、ビジョンがないと、いつまでにどのくらいの観光客を呼びたいんだというビジョンがないと先々まで使うこの箱の大きさを考えることはできないでしょ。私は、県がせつかく100万人とおっしゃってるんですから、入ってくるのが100万人というのは難しいかもしれません。しかし、今、大半が日帰りです。これ

を延べ人数で換算すると100万人、これは不可能なことじゃないと思っています。

今、私が言ったことについて、どんなふうに感じますか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 延べ人数とおっしゃられたのは、宿泊した場合、それがカウントが……

○議員（6番 脇本 啓喜君） 次の日だと2人になるということです。

○市長（財部 能成君） 2人になるという意味ですね。それについては、十分に承知はしております。

そういう意味において、そういうホテルとかいうことも考えなくてはいけないし、この国際ターミナルについては、新しく作り出す部分と、そして、今あります赤い屋根のターミナルがございませう。それらを一緒になって使っていくことによって、多くの観光客の方が外でお待ちになるようなことのないように組み立てはしておるところでございます。

1回につき450人ぐらいは、一度に入るはずですが、2つを使っていくことによってですね。今の船、それ豪華客船、とんでもないのが来たら、もうそれは論外ですが、通常の航路、定期航路の考え方でいった場合の計算は、私どもとしては、した上で、そして赤い方の施設ですね、それも使いながら、組み立てていくという考え方で国際ターミナルの部分は、設計といいますか、それをワークショップ等が進められておるところであります。

○議長（作元 義文君） 6番、脇本啓喜君。

○議員（6番 脇本 啓喜君） 今、ワークショップ等が進められているということですが、ワークショップは5月に終わってからないですよ。

○市長（財部 能成君） ワorkshopを今現在形、進行形という意味では。

○議員（6番 脇本 啓喜君） あまりにも、そういうワークショップ等も時間が置き過ぎて間延びしてますよ。せつかく、このまちづくりに参画しようと市民が出てきているのに、準備が追いついていない。せつかく、この新国際ターミナルができることで、特に北部の人たちは、国内の観光客を呼び込めないんですよ。今の交通状況では、日帰りできないんですよ。

この前、よりあい処つしまに委員長として呼ばれましたが、日帰りしようと思うと飛行機を使うか、朝5時の乗り合いタクシーに乗って、ジェットフォイルに乗って、そうすると、帰りはフェリーげんかいで帰ってきて、次の朝になると。これでは、国内観光客を呼ぼうと思っても呼べないんです。だから、なおさらこの国際ターミナルに北部住民は一生懸命いいものをつくりたいというふうに感じているんですよ。なかなかそれが、市当局と同じ歩調になってないなというふうに感じざるを得ません。

今、一度に450名の乗客を審査できるというふうにおっしゃいましたが、今、ドックには入ってますが、オーシャンフラワー1隻だけで450入ってくるんですよ。それを審査するのに

1時間から2時間かかるんですよ。オーシャンが入った後、コビーでもビートルでも150人入ってきたら450人じゃ入りきれないじゃないですか。しかも、大型客船を誘致するというのではなくても、国内線が網代に移ったことで、国際線が3隻十分とまれるスペースが、今度確保できているんです。

そういうことも考えると、450名の審査ブース、審査のその広さで十分なんではないでしょうか。答弁をお願いします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 450人で十分なのかと言われれば、ただし、今度は航路事業者のほうにも私どもはお願いをしていかなくてははいけません。バッティングしないような入港のあり方というのをお願いをせざるを得ないと思っています。そのことによって、リピーターにどんどんなっただけのためにも必要だと思っています。

また、もう一方、当然、これについては、交付金事業でやっております。補助等の採択にも私どもが望む八百、九百とか仮にですね、望むとおりにはいかないのも現実であります。

○議長（作元 義文君） 6番、脇本啓喜君。

○議員（6番 脇本 啓喜君） はい。市の財政にも限りがあるということは、重々承知しています。

ただ、予算というのは、優先順位をつけてやるものだと思っています。この国際ターミナル建設に対して交付金、いいでしょう。まず、市の一般財源というか、特例債でもいいです。そういうことは考えられなかったんですか。何かもらうものはもらってやりたい、それは節約しようという気持ちはわかります。そのことで、自由度も制限されていくはずですね。本当に国際交流を広げようとそういうつもりがあるのならば、そういった選択も無謀かもしれませんが、あってもよかつたのではないのでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今、たしかこの事業で4億円、5億円という事業がかかっております。その全てを合併特例債を当て込むと、そして自由度を上げるべきじゃないかというお話でございますけれども、それも市民の、私ども財政を預っておる上においては、交付金をとれるものは、極力とってやっていくというのも市民に対しての、私は責任もあろうかと思えます。そういう意味でのこの事業をこの規模ということで、そのとき市民の皆様も入る中でこの規模というのは決定されたとは私は聞いておりますけれども。

○議長（作元 義文君） 6番、脇本啓喜君。

○議員（6番 脇本 啓喜君） はい。私もその決定の間までは参加させていただくことはできませんが、過程となるワークショップ等には参加させていただいています。そのときにも申し上げ

ましたが、今、対馬に入り込んできている航路業者3社、この現状をよく考えると博多釜山航路ではもう採算が合わなくなってきている、そういう状況にあるということは市長も十分御存じのことだと思います。LCCがこれだけくれば、数千円しか変わらず、2時間も、3時間もかけて博多釜山間を走っているのよりも、高速船よりも飛行機に乗る、そちらのほうにずっとシフトしてきています。

であれば、この3社は対馬にたくさんお客さんを連れてくるしか生き残る道は僕はないと思っています。このことは、以前も話したと思います。そして、対馬市もお金がない中、それだけの観光客を受け入れるための整備をしていかなきゃいけません。その3社と共同して、協力して、この国際ターミナル等建設を図るとか、PFI方式使うとか、そういうことは考えなかったんでしょうか。私は、これはワークショップのときには話をしました。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今、2つ手法が出されました。航路事業者との共同での建設手法ということと、もう一つはPFIとおっしゃられました。

1点目のその航路事業者との共同でやった場合、その公共施設である部分の限定されてくる航路事業者が、事によって航路等のいろんな利害関係が発生するのではないかと、新たな新規参入ができなくなってくるのではないかと、今、聞いた段階で、ハッとそれを浮かびました。

もう一つのPFIとおっしゃいますが、PFI方式で国以外で大きな自治体以外でそれをどのように組み立てているか、私はなかなか事例にぶつからないんです。PFI方式というのが、私も以前PFIの問題が出てきたときにも研究させていただきましたけども、債務負担行為を20年、30年、40年と組むことにもなるんですね。そのやり方が本当に地方自治体においてできるのかと。国は国債をどんどんすればPFI方式は幾らそれを債務負担組んでたとしてもそれは可能です。

ところが、その地方交付税でやってる地方自治体において、そのPFI方式というのが実際問題できるんだろうかということで、難しさを感じております。それで、もし、私も不勉強な、そのPFIに関しましては不勉強なところもございます。この問題に限らず、いろんな公共施設における地方自治体、それも小さい自治体のPFI方式というのを脇本議員が御存じならば、私どもに御教授いただければ、私どももそういう手法というのはどんどん今後取り入れていくことも可能なんではないかというふうに思います。

○議長（作元 義文君） 6番、脇本啓喜君。

○議員（6番 脇本 啓喜君） 例として2つ、航路事業者と協力してやること、それから、このPFI方式というのを例として挙げたんですが、まず第一に調整を図るべきは、この3社との協力だと思いますよ。新しい航路事業者の参入の妨げになると。では、これだけのことをやろうと

してるんだということになれば、逆にその時点で新しい業者がまた入り込もうかということでも来られるかもしれません。また、ありがたいことじゃないですか、対馬市にとっては。

いろんなことをやってみましょうよ。動いてみましょうよ。PFI方式、小さいところでどこがやっているのか、私もそれほど小さいところはわかりません。ただ、きのう、大部議員のほうから昨年の産業建設常任委員会の視察の話がありましたが、そのときに熊本市の熊本城前の施設を視察に行ってきました。そこは、PFI方式ですばらしい施設ができていました。確かに、対馬市の中でPFIに手を上げるような企業はなかなかいないと思います。これも企業誘致と絡んでくるかもしれませんが、何かできないかと、最初からできないのではなくて、検討をまずして、物事に、この国際ターミナルをつくるというのは、10年、20年、30年、長いスパンの問題です。今、預かってらっしゃる市長がもっと真摯に、真剣にどういう手法があるかということの研究していただきたいというふうに思います。

ホテル誘致についてですが、今のところ、まだめどが立っていないということです。これは、今回の質問のときに多分市長のほうから紹介があるかなと思ったんですが、リゾート計画を今、上対馬、北部対馬のほうでワークショップでやってますよね。そういうことについても、この一般質問というのは議員と市長のやり取りだけじゃなくて、市がこういう取り組みをやってますよということをお知らせするいい機会だと思います。北部対馬の人も、こういう計画が進んでくるといことはあまり理解されていないと思います。よければ、その概要をここで説明していただきたいと思います。市民にお知らせするという意味からも。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 観光リゾートイメージ図作成事業ということで、今、北部のほうで取り組みをされておる段階でございます。最終的な中味というのは、こちらのほうには、まだ上がってきておりません。その中に、先ほども言いましたが、春田議員もおっしゃられるそのあたりの埋め立ての問題、今、脇本議員がおっしゃられるような問題、それらをどのように盛り込んでいくのかと、そして、市民の意見をどのように反映させていくのかということで、今取り組んでいる最中ということで、私は理解をしております。

○議長（作元 義文君） 6番、脇本啓喜君。

○議員（6番 脇本 啓喜君） 今、このリゾート計画のことについて、あえて市長に質問したのは、いろんな検討委員会、それからワークショップが行われていますが、それぞれの担当者から市長のほうに進捗状況がしっかり届いてるんだろうかということの一つはお聞きしたかった。

確かに、その埋立地のことも少しは出ましたが、今、このリゾート計画については、三宇田浜から殿崎にかけて、それから権現山、この三角地点、これをどういうふうに行っていくかということにある程度絞ってやっていく方向で進んでいるはずですよ。しっかり、その結果だけではな

くて、進捗状況も理事者のほうもしっかり市長に伝えて、市民の意向を少しでも早く取り入れられるように、計画ができてしまう前でもできることはあるでしょ、簡単なことであれば。そういう姿勢で、そういうワークショップ、審査会、活用していただきたいと思います。

貿易について、もっと話をしたかったんですが、ビジョンがないということですので、お話ししても仕方がないと。

だから、久田のほうにアナゴ船を、貿易船も移行するような、そういうちぐはぐなことになってしまってるんだなというふうに感じます。合同庁舎から、わざわざあんな離れたところに何でしなけりゃいけないのかわかりません。そして、貿易船が入港してくる際に手続をすることになっていますが、それも十分な手当ができていません。電話とファックスが一緒になってる状況で切りかえを忘れていたり、ファックスだけで他の自治体が一応受付をするところを、持ってきた段階でしか認めないとか、そういうことでは対馬市、貿易は振興を図れませんよ。手続の簡素化、こういうことを進めていくことも貿易の振興につながるんじゃないんでしょうか。

市長、頭ひねっているようですので、今言ったことがさっぱりわからないかと思いますが、部長のほうからでも、その手当で、どういうふうになさっていかうとしてるのかお聞かせください。

○議長（作元 義文君） 部長でいいかな。市長、部長に振る。建設部長、堀義喜君。

○建設部長（堀 義喜君） 運航事業者のほうから手続があるわけですが、その問題となっておりますのが、先ほど脇本議員さんのほうからお話があったファックスは出しとつても、たまたま話し中とか、担当がいなくて受理をできなかった場合があります。これにつきましては、ファックスのほうの改修をしていくということで対応させていただいております。

それと、来庁しても管理事務所のほうが留守だったということで持っていてもそれを受理をできなかったというケースがあつております。これにつきましても、事務所の入り口にポストを設置をして、そこの中に投函をしていただければ受理ができるという方向で、今できる限りの対応策は検討させていただいているということでございます。

○議長（作元 義文君） 6番、脇本啓喜君。

○議員（6番 脇本 啓喜君） では、明確にお答えください。どの時点で受け付けたというふうには市は捉えるようにしていますでしょうか。ファックスが届いた時点なのか、それとも、あくまでもその原本が届いた時点なのか、そのあたりをはっきりさせてください。

○議長（作元 義文君） 建設部長、堀義喜君。

○建設部長（堀 義喜君） 今までどおり、ファックスの受信は、あくまでもこの日に入港するよという予約でございます。それで、最終的には事務所のほうに本書の提出があつた時期で受理をしたいというふうに思っております。

○議長（作元 義文君） 6番、脇本啓喜君。

○議員（6番 脇本 啓喜君） では、24時間ルールに対応するためには、どういうふうな手当てをしてらっしゃるのでしょうか。お聞かせください。

土曜、日曜日、連休となると3日間なくなりますよね、24時間ルール、そのときに緊急に入るとき、どういうふうに対処されますか。ファックスでは正式ではないということであれば、そこに誰かいないと受け取れないと思うんですが。

○議長（作元 義文君） 建設部長、堀義喜君。

○建設部長（堀 義喜君） 基本的に連休になるとかというのは、全ての人がその辺の状況は知っておられると思っております。緊急な場合を除いて、通常の場合であれば、そういう辺の連休が入るなという状況の前に、ある程度管理事務所なり、うちの管理のほうに連絡をしていただければ、その辺の対応はしていけるんですけど、緊急な場合で連休の中に急遽入港しなくちゃいけないという状況については、その辺で担当との携帯電話のやり取りでどうか対応できないか、その辺を含めて検討していきたいというふうに思っております。

○議長（作元 義文君） 6番、脇本啓喜君。

○議員（6番 脇本 啓喜君） もう、時間が来ましたので、これは小さいようですが、一つの市の貿易振興に対する姿勢のあらわれだと思いますよ。少しでも多くの貿易を対馬でやっていこうというのであれば、手続の簡素化、進めていくべきだと思います。

それから、海上保安庁との連絡、そういうことについてもしっかりと取り組んでいただきたいというふうに申し上げて、本日の質問は終わりたいと思います。

○議長（作元 義文君） これで、脇本啓喜君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 本日は、これで散会とします。

午後2時55分散会
